

高等学校第1学年 英語表現Ⅰ 学習指導案

日 時 平成29年11月7日(火) 第2校時
指導者 教育センター所員 相島 倫子

1 単元名 Lesson 8 「比較を使って表現する」 (DUALSCOPE English Expression 数研出版)

2 単元について

「英語表現Ⅰ」の目標は、「英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う」⁽¹⁾とある。この科目のねらいは、「基本的な言語規則に基づいて、様々な場面に応じて適切に話すことや書くことができるようにし、あわせて論理的思考力や批判的思考力を養う」⁽²⁾ことである。これらを踏まえ、単元を「習得」→「活用」の学習プロセスで構成し、学習内容の定着を目指す。「習得」の過程で、表現を支える語句・発音・表現・文法事項等を学習し、「活用」の過程で習得した知識・技能を実際に活用し、思考・判断・表現することの繰り返しを通じて、学習内容が定着すると考える。「活用」の学習過程を充実させるために、生徒が習得した知識・技能を実際に活用する言語活動の工夫を図る。習得した知識・技能を自己表現につなげる指導を展開する中で、生徒は文法がコミュニケーションを支えるものであると体感できるであろう。

本単元では、言語材料として「比較」を扱う。「比較」は、実生活での言語使用においても要求される認知作業であり、英語を通じて行う活動においても生徒にとって自然な認知プロセスとなるような言語の使用場面の設定が必要である。そのため、できるだけ具体的な言語の使用場面を設定すること、生徒の学習状況に応じたスモール・ステップを準備することに留意する。「活用」の学習過程では、副教材として資料(表・グラフ)を用いる。その読み取りは情報の比較が基本であるため、既習事項を使う必然性を持たせることができる。資料(表・グラフ)を用いることで、習得した知識・技能を活用する具体的な使用場面を設けると同時に、読み取りに必要な表現や相手に分かりやすく簡潔に伝える発話スタイルを指導するよい機会になると考える。また、生徒の実態を表す資料を教材として扱うことで、生徒は表現するおもしろさや伝わる喜びを感じ、生き生きと表現活動に取り組むことであろうと期待できる。卒業時の学習到達目標である「場面や相手に応じて、ある程度のスピードを伴って英語でやり取りができる力の育成」の実現を目指し、本単元では、主にスピーキング活動に焦点を当て、ゴール到達までの過程における言語活動の工夫を図る。

3 単元の目標

- 与えられた話題に対して、ペアで積極的に自分の意見や考えを述べる。
- 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や自分の考えなどをまとめて表現する。
- 比較構文の用法を理解するとともに、場面や状況に応じた表現や論理の展開を表す表現についての知識を身に付ける。

4 単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
与えられた話題に対して、ペアで協力して積極的に自分の意見や考えを述べようとしている。	聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や自分の考えなどをまとめて表現することができる。		①比較構文の用法を理解している。 ②場面や状況に応じた表現や論理の展開を表す表現についての知識を身に付けている。

5 指導と評価の計画(3時間)

時間	ねらい・学習活動・指導上の留意点	単元の評価規準	評価方法
1	<p>[ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーディング, リスニング活動を通して本課で扱う文法・機能表現の使用方法をつかむ。 ・音読, 演習, リスニング等を通して文法知識を習得する。 <p>[学習活動]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. トビラ写真を使った活動を通して, 本課で学習する文法・機能表現をイメージする。 2. INTRO ACTIVITY の STEP1, 2を使って, リーディング, リスニング活動をする。 3. 例文ならびにその解説を読む。 4. 例文の音読練習をする。 5. EXERCISES の問題を解き, 添削する。 <p>[指導上の留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・teacher talk を効果的に活用する。 ・中学校の既習内容の確認と, 他の文法項目との区別を付けさせる。 	<p>関・意・態</p> <p>知・理の①</p>	<p>活動の観察</p> <p>筆記テスト(後日)</p>
2	<p>[ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーディング, リスニング活動を通して, 本課で扱う文法・機能表現の使用方法をつかむ。 ・音読, 演習, リスニング等を通して, 文法知識を習得する。 <p>[学習活動]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 例文ならびにその解説を読む。 2. 例文の音読練習をする。 3. EXERCISES の問題を解き, 添削する。 4. Let's Try!を使って表現活動を行う。 <p>[指導上の留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・teacher talk を効果的に活用する。 ・中学校の既習内容の確認と, 他の文法項目との区別を付けさせる。 ・必要な文法事項に絞って指導する。 ・基本例文をもとに自己表現をすることで, 使用場面を経験させる。 	<p>知・理の①</p> <p>関・意・態</p>	<p>筆記テスト(後日)</p> <p>活動の観察</p>

3 (本時)	<p>[ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習事項等を活用して、読み取った内容を要約したり自分の考えを根拠とともに話したりする。 <p>[学習活動]</p> <ol style="list-style-type: none"> 活動に必要な文法・機能表現を復習する。 資料の概要や要点を説明する。 身近な話題について情報や意見を交換する。 話した内容を分かりやすく書いてまとめる。 <p>[指導上の留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な言語の使用場面を設ける。 スピーキング・ライティング活動に必要な定型表現を提示する。 	関・意・態 表現 表現 知・理の②	活動の観察 ワークシート スピーキングテスト (後日) ワークシート
-----------	---	--------------------------------	--

6 本時の目標及び評価規準

(1) 目標

- ア ペアで協力しながら、身近な話題についてある程度まとめた内容を伝え合うことができるようになる。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度／外国語表現の能力)
- イ 学習した語句や表現を活用して、自分の考えとその理由を、具体例などを示しながら論理的に表現することができるようになる。(外国語表現の能力／言語や文化についての知識・理解)

(2) 指導の視点

本時は、主にスピーキング活動に焦点を当て、生徒の学習状況に応じたスモール・ステップを設定する。生徒に論理の展開や表現方法の工夫に留意させるとともに、生徒の「伝えたい」という表現意欲を喚起し、生き生きと表現活動に取り組む姿を見られるような授業展開を目指す。生徒の主体的・能動的な表現活動につなげるために、「体験的な活動と結び付けさせる」「表現をする中で何かを発見させる」「表現技能を練習させる」ことを指導のポイントと考える。

【視点1】

2つの活動(Activity①・Activity②)の言語活動の構成は、生徒の学習状況に応じたスモール・ステップになっていたか。

【視点2】

ルーブリックの提示や言語の使用場面の設定の工夫は、生徒の主体的・能動的な表現活動に有効であったか。

2	4. Wrap-up	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の活動を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の目標の達成度について自己評価させる。 ・ 生徒の意欲を引き出す motivational feedback を与える。 		
---	------------	---	---	--	--

(4) 本時の評価

ア ①については形成的評価として扱い、後日スピーキングテストを行う。

ペアで実践！ Impromptu Speaking			
コミュニケーションへの関心・意欲・態度		外国語表現の能力	
A	話し手は3秒以上の沈黙をしないよう効果的につなぎ言葉を使ったり、聞き手は質問をして相手の発話を促したりして、ペアで協力して1分間英語を楽しく話し続けようとしている。	A	「意見」＋「理由」＋「具体例2つ」＋「結論」を、「意見」と「結論」は表現を変えて、論理的に話すことができる。
B	話し手は多少の沈黙はあってもつなぎ言葉を使ったり、聞き手は相手の話にうなずいたりして、ペアで協力しておおむね1分間英語を話し続けようとしている。	B	「意見」＋「理由」＋「具体例1つ」＋「結論」を、「意見」と「結論」は表現を変えて、論理的に話すことができる。
C	話し手は沈黙することが多く、聞き手は相手に質問しようとせず、ペアでの協力が不十分である。	C	「意見」＋「理由」に対する具体例がなく、「意見」と「結論」には同じ表現を用いて話すことができる。
<p>Cへの取るべき手立て</p> <p>沈黙を埋めるつなぎ言葉や相手への反応の仕方を確認する。生徒の多くが比較構文の用法を身に付けていない場合は、次時に全体で補足説明をする。</p>			

イ ②についてはワークシート回収後に評価する。

学習した語句や表現を活用して、自分の考えとその理由を、具体例などを示しながら論理的に表現することができるようになる。(表現の能力/言語や文化についての知識・理解)	
A	「意見」＋「理由」＋「具体例2つ」＋「結論」を、「意見」と「結論」は表現を変えて、論理的に表現している。
B	「意見」＋「理由」＋「具体例1つ」＋「結論」を、「意見」と「結論」は表現を変えて、論理的に表現している。
C	「意見」＋「理由」に対する具体例がなく、「意見」と「結論」には同じ表現を用いている。
<p>Cへの取るべき手立て</p> <p>つまずきの原因を確認し個別に指導する。生徒の多くが比較構文の用法を身に付けていない場合は、次時に全体で補足説明をする。</p>	

《引用文献》

(1)(2) 文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』 平成22年5月